

令和5年度	令和6年度	改定理由
品質管理基準	品質管理基準	
<p>2 品質管理基準及び規格値（案）</p> <p style="text-align: center;">目 次</p> <p>6 既製杭 ..... II - 6</p>	<p>2 品質管理基準及び規格値（案）</p> <p style="text-align: center;">目 次</p> <p>6 既製杭工..... II - 6</p> <p>7 基礎工..... II - 6</p> <p>8 場所杭工..... II - 6</p> <p>9 既製杭工（中掘り杭工コンクリート打設方式）..... II - 6</p> <p>注） なお、工種番号10番以後については、工種番号のみ変更となる項目は新旧対照表に表示していない。</p>	<p>誤植 新規追加 新規追加 新規追加</p>

令和5年 品質管理基準及び規格値								令和6年 品質管理基準及び規格値								改定理由		
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験時期・頻度	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験時期・頻度	摘要	試験成績表等による確認	
1 セメント・コンクリート (転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)	施工後試験	必須	ひび割れ調査	スケールによる測定	0.2mm	本数 総延長 最大ひび割れ幅等	高さか、5m以上の鉄筋コンクリート擁壁、内空断面積が25㎡以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上・下部工及び高さ3m以上の堰・水門・樋門を対象。(ただしいずれの工種についてもプレキャスト製品及びプレストレストコンクリートは対象としない)とし構造物躯体の地盤や他の構造物との接触面を除く全表面とする。フーチング・底板等で竣工時に地中、水中にある部位については竣工前に調査する。 ひび割れ幅が0.2mm以上の場合は、「ひび割れ発生状況の調査」を実施する		1 セメント・コンクリート (転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)	施工後試験	必須	ひび割れ調査	スケールによる測定	0.2mm	本数 総延長 最大ひび割れ幅等	高さか、5m以上の鉄筋コンクリート擁壁、内空断面積が25㎡以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上・下部工及び高さ3m以上の堰・水門・樋門を対象。(ただしいずれの工種についてもプレキャスト製品及びプレストレストコンクリートは対象としない)とし構造物躯体の地盤や他の構造物との接触面を除く全表面とする。フーチング・底板等で竣工時に地中、水中にある部位については竣工前に調査する。 ひび割れ幅が0.2mm以上の場合は、「ひび割れ発生状況の調査」を実施する ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」により施工完了時のひび割れ状況を調査する場合は、ひび割れ調査の記録を同要領(案)で定める写真の提出で代替することができる。		「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき品質管理を実施する場合同要領によることを追記。
4 プレキャストコンクリート製品 (その他)	材料	その他 (JISマーク表 示されたレディ ミキストコン クリートを 使用する場 合は除く)	骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	JIS A 5364 JIS A 5308	1回/月以上及び産地が変わった場合。	JIS A 5005 (砕砂及び砕石) JIS A 5011-1 (高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (フェロニッケルスラグ骨材) JIS A 5011-3 (銅スラグ骨材) JIS A 5011-4 (電気炉酸化スラグ骨材) JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材)	○	4 プレキャストコンクリート製品 (その他)	材料	その他 (JISマーク表 示されたレディ ミキストコン クリートを 使用する場 合は除く)	骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	JIS A 5364 JIS A 5308	1回/月以上及び産地が変わった場合。	JIS A 5005 (コンクリート用砕石及び砕砂) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材-第1部:高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材-第2部:フェロニッケルスラグ骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材-第3部:銅スラグ骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材-第4部:電気炉酸化スラグ骨材) JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材)	○	JIS名称変更にもなう
4 プレキャストコンクリート製品 (その他)	材料	その他 (JISマーク表 示されたレディ ミキストコン クリートを 使用する場 合は除く)	骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005	粗骨材: 1.0%以下 細骨材: コンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合3.0%以下、その他の場合5.0%以下 (砕砂およびスラグ骨材を用いた場合はコンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合5.0%以下その他の場合7.0%以下)	1回/月以上及び産地が変わった場合。 (微粒分量の多い砂 1回/週以上)		○	4 プレキャストコンクリート製品 (その他)	材料	その他 (JISマーク表 示されたレディ ミキストコン クリートを 使用する場 合は除く)	骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005	粗骨材 砕石 3.0%以下 (ただし、粒形判定実績率が58%以上の場合は5.0%以下) スラグ骨材 5.0%以下 それ以外 (砂利等) 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) スラグ骨材 7.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) それ以外 (砂等) 5.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は3.0%以下)	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)		○	骨材の微粒分量試験について、コンクリート標準示方書に沿った改定を実施していたが、一部改定できていなかったため、1セメント・コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)と同様とする。
4 プレキャストコンクリート製品 (その他)	材料	その他 (JISマーク表 示されたレディ ミキストコン クリートを 使用する場 合は除く)	コンクリート用混和材・化学混和剤	JIS A 6201 JIS A 6202 JIS A 6204 JIS A 6206 JIS A 6207	JIS A 6201 (フライアッシュ) JIS A 6202 (膨張材) JIS A 6204 (化学混和剤) JIS A 6206 (高炉スラグ微粉末) JIS A 6207 (シリカフェューム)	1回/月以上 ただし、JIS A 6202 (膨張材) は1回/月以上、JIS A 6204 (化学混和剤) は1回/6ヶ月以上	試験成績表による。	○	4 プレキャストコンクリート製品 (その他)	材料	その他 (JISマーク表 示されたレディ ミキストコン クリートを 使用する場 合は除く)	コンクリート用混和材・化学混和剤	JIS A 6201 JIS A 6202 JIS A 6204 JIS A 6206 JIS A 6207	JIS A 6201 (フライアッシュ) JIS A 6202 (膨張材) JIS A 6204 (化学混和剤) JIS A 6206 (高炉スラグ微粉末) JIS A 6207 (シリカフェューム)	1回/月以上 ただし、JIS A 6204 (化学混和剤) は1回/6ヶ月以上	試験成績表による。	○	誤植
									7 基礎工	施工	必須	支持層の確認	試験杭	試験杭の施工により定めた方法を満足していること。		中掘り杭工法(セメントミルク噴出掘削方式)、フルボーリング杭工法、鋼管ソールセメント杭工法及び回転杭工法における支持層の確認は、支持層付近で掘削速度を極力一定に保ち、掘削抵抗値(オーガ駆動電流値、積分電流値又は回転抵抗値)の変化をあらかじめ調査している土質柱状図と対比して行う。この際の施工記録に基づき、本施工における支持層到達等の判定方法を定める。		新規追加
									8 場所杭工	施工	必須	孔底沈殿物の管理	検測テープ	設計図書による		孔底に沈積するスライムの量は、掘削完了直後とコンクリート打込み前に検測テープにより測定した孔底の深さを比較して把握する。		新規追加
									9 既製杭工 (中掘り杭工 コンクリート 打設方式)	施工	必須	孔底処理	検測テープ	設計図書による		泥分の沈降や杭先端からの土砂の流入等によってスライムが溜ることがあるので、孔底処理からコンクリートの打設までに時間が空く場合は、打設直前に孔底スライムの状態を再確認し、必要において再処理する。		新規追加
11 アスファルト舗装	舗設現場	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3]-218	基準密度の96.5%以上。	500㎡に1個の割でコアを採取して測定。	橋面舗装はコア採取しないでAs合材量(プラント出荷数量)と舗設面積及び厚さでの密度管理、または転圧回数による管理を行う。		14 アスファルト舗装	舗設現場	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3]-218	基準密度の94%以上。 1個~3個の平均値: 96.5%以上 4個~6個の平均値: 96%以上 7個以上の平均値: 96%以上 歩道箇所: 設計図書による	500㎡に1個の割でコアを採取して測定。	橋面舗装はコア採取しないでAs合材量(プラント出荷数量)と舗設面積及び厚さでの密度管理、または転圧回数による管理を行う。		実態を踏まえた規格値の変更
24 路上再生路盤工	施工	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4]-256 砂置換法 (JIS A 1214)	基準密度の96.5%以上。	500㎡に1個の割でコアを採取して測定。			27 路上再生路盤工	施工	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4]-256 砂置換法 (JIS A 1214)	基準密度の93%以上 1個~3個の平均値: 96.5%以上 4個~6個の平均値: 95.5%以上 7個以上の平均値: 95%以上	500㎡に1個の割でコアを採取して測定。			実態を踏まえた規格値の変更
25 路上表層再生工	施工	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3]-218	基準密度の98.5%以上	500㎡に1個の割でコアを採取して測定。	空隙率による管理でもよい。		28 路上表層再生工	施工	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3]-218	基準密度の96%以上 1個~3個の平均値: 98.5%以上 4個~6個の平均値: 98%以上 7個以上の平均値: 98%以上	500㎡に1個の割でコアを採取して測定。	空隙率による管理でもよい。		実態を踏まえた規格値の変更

令和5年 品質管理基準及び規格値								令和6年 品質管理基準及び規格値								改定理由			
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験時期・頻度	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験時期・頻度	摘要	試験成績表等による確認		
26 排水性舗装工・透水性舗装工	舗設現場	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3]-224	基準密度の96.5%以上。	500㎡に1個の割でコアーを採取して測定。			29 排水性舗装工・透水性舗装工	舗設現場	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3]-224	基準密度の94%以上 1個～3個の平均値：96.5%以上 4個～6個の平均値：96%以上 7個以上の平均値：96%以上 歩道箇所：設計図書による	500㎡に1個の割でコアーを採取して測定。			実態を踏まえた規格値の変更	
27 プラント再生舗装工	舗設現場	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3]-218	基準密度の96.5%以上。	500㎡に1個の割でコアーを採取して測定。			30 プラント再生舗装工	舗設現場	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3]-218	基準密度の94%以上 1個～3個の平均値：96.5%以上 4個～6個の平均値：96%以上 7個以上の平均値：96%以上  再アス処理の場合 基準密度の93%以上 1個～3個の平均値：96.5%以上 4個～6個の平均値：95.5%以上 7個以上の平均値：95%以上	500㎡に1個の割でコアーを採取して測定。			実態を踏まえた規格値の変更	
31 中層混合処材料 ※全面改良の場合に適用。混合処改良体（コラム）を造成する工法には適用しない		必須	土の湿潤密度試験	JIS G 0191	設計図書による		土質の変化したとき必要に応じて実施する。	配合を定めるための試験である。	34 中層混合処材料 ※全面改良の場合に適用。混合処改良体（コラム）を造成する工法には適用しない		必須	土の湿潤密度試験	JIS A 1225	設計図書による		当初及び土質の変化した時。	配合を定めるための試験である。	誤植	
32 鉄筋挿入工	施工	必須	引き抜き試験	地山補強土工法設計・施工マニュアル	設計図書による		・施工全数量の3%かつ3本以上を標準とする。 ・載荷サイクルは1サイクルとする。		35 鉄筋挿入工	施工	必須	引き抜き試験 (受入れ試験) 引き抜き試験 (適合性試験)	地山補強土工法設計・施工マニュアル	設計図書による		・施工全数量の3%かつ3本以上を標準とする。 ・載荷サイクルは1サイクルとする。			誤植